

「加糖」表示により心臓病や糖尿病が減少する可能性

飲食物への過量な糖の添加、とくに加糖飲料に含まれる糖分は心臓血管病や糖尿病の主要な危険因子である。2016年に米国食品医薬品局(FDA)は、包装された食品や飲料の栄養成分表示に添加糖分の表示を加えることを義務づけることを発表した。しかし、この政策による健康への貢献度や費用対効果については、未だ明らかにはなっていない。

本研究では、人口統計学的因子や、食生活、既往歴などについての情報を反映させたコンピューターモデルを用い、「加糖」表示への改正が消費者へ及ぼす影響と心臓血管病や2型糖尿病の予防効果について検討した。分析の結果、2018～2037年の20年間で354,400件の心臓血管病と599,300件の2型糖尿病を予防でき、医療費は310億ドル、社会的コストは619億ドルの削減になることが試算された。さらに、表示の改正に加えて、添加する糖の量を削減すると、今後20年間で708,800件の心臓血管病と1,200,000件の糖尿病が予防でき、医療費は576億ドル、社会的コストは1,132億ドルの削減になると推計された。

したがって、米国食品医薬品局による「加糖」表示の導入は国民の健康に寄与し、コスト削減にも繋がることが示された。

出典:Circulation. 2019 Jun 4;139(23):2613-2624.